

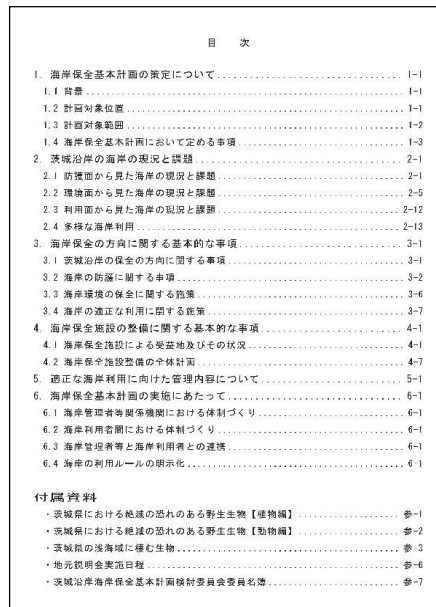
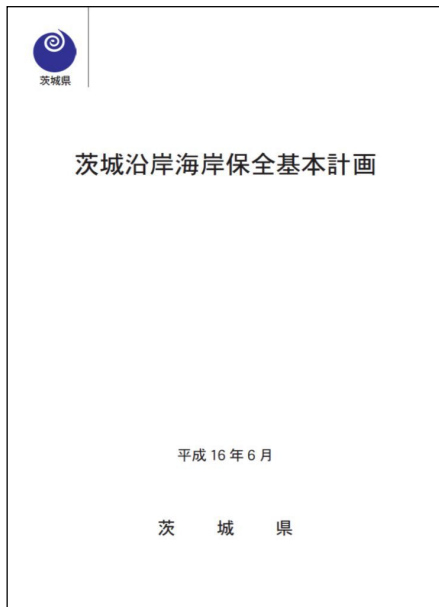
(3) 茨城沿岸海岸保全基本計画 改訂の方向性について

第1回茨城沿岸海岸保全基本計画改訂検討委員会 H27.7.13

目次

資料-3

1. 海岸保全基本計画の策定について	1
2. 茨城沿岸の海岸の現況と課題	1
3. 海岸の保全に関する基本的な事項	2
4. 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項	4
5. その他の事項	6



1). 海岸保全基本計画の策定について

- 東日本大震災の教訓、海岸法の一部改正等による今回の改訂の経緯について追記する。

2). 茨城沿岸の海岸の現況と課題

- 茨城沿岸の防護面、環境面、利用面の現況と課題を見直し、記載を追記・更新する。

3). 海岸の保全に関する基本的な事項

- (1) 東日本大震災の発生、教訓、新たな津波対策の考え方を踏まえ、「海岸防護に関する施策」を見直す。
※被害の最小化を主眼とする「減災」の考え方、ハード・ソフトの組み合わせの対応、二つのレベルの津波の想定など
- (2) 海岸法の一部改正を踏まえ、防災・減災の考え方、越波が生じて粘り強く効果を発揮する構造の工夫（改良）、耐震強化の推進などを、「海岸防護に関する施策」の記載に追記する。
- (3) 津波防災地域づくりに関する法律を踏まえ、多重防御の考え方を、「海岸防護に関する施策」に追記する。

2つのレベルの津波の想定		要求性能	対策	茨城県
レベル1 津波	近代で最大 (数十年から百数十年の頻度)	防災 ● 人命を守る ● 財産を守る／経済活動を守る	ハード ※海岸堤防などで防護	・チリ地震 1960 ・元禄地震 1703
レベル2 津波	最大クラス (1000年に1回程度の頻度) ※東日本大震災級	減災 ● 人命を守る ● 経済的損失を軽減する ● 大きな二次災害を引き起こさない ● 早期復旧を可能にする	ソフト ※避難を柱とした総合的防災対策	・H23想定津波 (1677年宝永津波) ・2011今次津波 (東北地方太平洋沖地震)



レベル1津波



レベル2津波
粘り強い構造

↑

「茨城沿岸津波対策検討委員会」
(平成24年8月設定)



東日本大震災の被害(宮城県山元町)

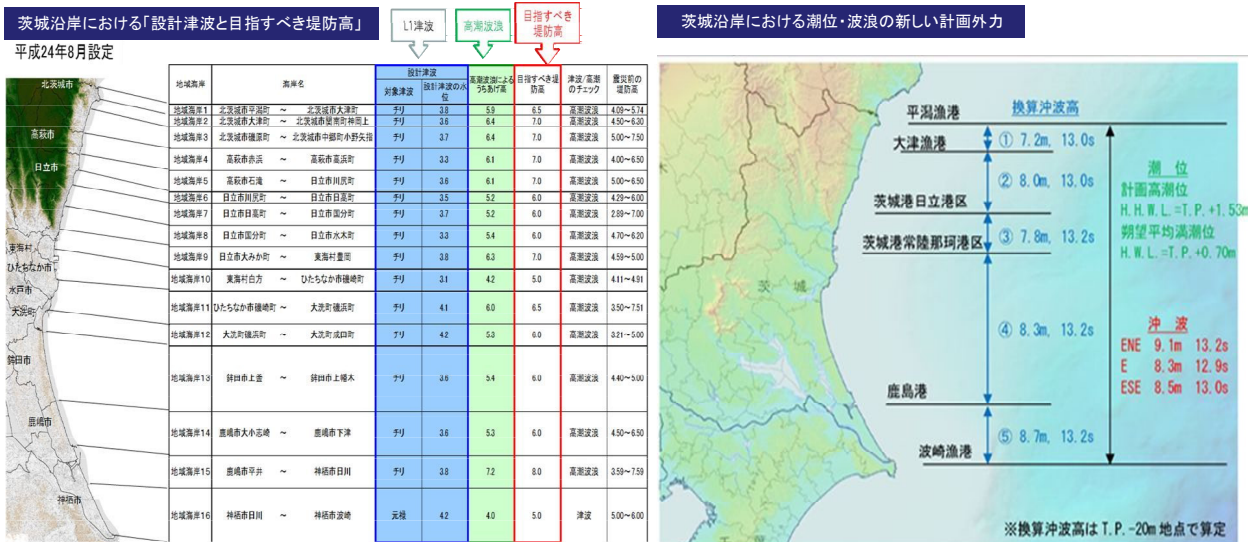
3). 海岸の保全に関する基本的な事項

(4)「茨城沿岸津波対策検討委員会」の検討(設計津波)を踏まえ、「海岸防護の目標」の記載を見直す。

※設計津波の水位の設定、目指すべき堤防高の設定の追記など

(5)「茨城沿岸海岸保全計画外力検討会」の検討(潮位・波浪)を踏まえ、「海岸防護の目標」の記載を見直す。

(6)環境、利用の施策の記載を、茨城沿岸の現況と課題の見直しを踏まえ、更新する。



4). 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

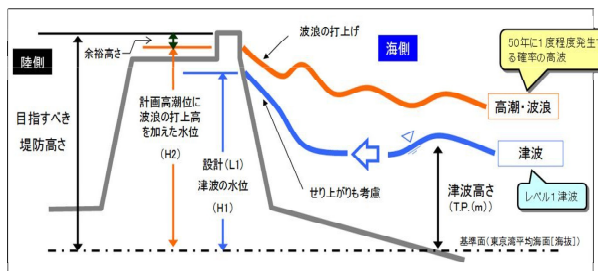
(1)侵食が進行する砂浜・海食崖を計画に位置づける。

(2)「目指すべき堤防高」に対して、高さが不足している海岸堤防等の整備を計画に位置づける。

(3)海岸法の一部改正を踏まえ、海岸保全施設の維持又は修繕に関する事項について、追記する。

茨城沿岸における「目指すべき堤防高」

- ・ L1津波(数十年から百数十年の頻度)と高潮・波浪(50年確率波)からの防護を考慮して、今後の海岸や河川河口部における堤防整備の目安となる高さ。
- ・ 茨城県内における目指すべき堤防高は、T.P.+5.0~8.0m <平成24年8月設定・公表>



L1津波(H1) 3.3 ~ 4.2m
高潮・波浪(H2) 4.0 ~ 6.4m
 高い方の高さ + 余裕高(約1m程度) = 目指すべき堤防高 [T.P.+5.0~8.0m]

海岸堤防の老朽化の状況



4). 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

(4)東日本大震災では、港湾・漁港の岸壁背後の宅地まで津波が浸水し、多大な被害が生じた。

地域の特性や常時の利用を勘案しつつ、背後地の浸水防護として新たな防護ライン(胸壁や陸こうなど)の設置などの津波対策を位置づける。

(5)水門・陸閘等の効果的な管理運用体制の確保のため、津波等の災害時において、水門・陸閘等の操作員の安全を確保したうえで、閉鎖の確実性を向上させるため、水門・陸閘等の常時閉鎖または自動化・遠隔操作化の取り組みを位置づける。

東日本大震災における港湾背後への津波浸水



水門・陸閘門の自動化・遠隔操作化



5). その他の事項

(1)広域的・総合的な視点からの取組の推進

海岸における土砂収支を改善させるため、漂砂系内に沿岸漂砂を遮断する構造物が存在する場合には、浚渫土砂等のサンドバイパスやサンドリサイクル等により、その影響が軽減されるよう関係機関の連携を強化する。また、河川の上流から海岸までの流砂系についても、関係機関との連携の下に広域的・総合的な土砂管理対策を推進する旨を追記する。

サンドリサイクルの実施状況

■サンドリサイクル<沖(細砂)養浜> (港湾・漁港→海岸)

総合的な土砂管理などの観点から、港湾や漁港の浚渫土砂を優良海岸の沖合い(水深8m以深)へ養浜(サンドリサイクル)する取り組みを港湾管理者(国・県)や漁港管理者(県)と連携して行っている。(H21~)



サンドバイパスの実施状況

■サンドバイパス (河川→海岸)

【久慈川】盛岡河川連閉付位置図



ONo.36~No.37のヘッドランド間で、No.37の南側へ投入。

久慈川⇒大洗海岸	年度	投入量
	平成25年度	4,500m ³
	平成26年度	28,000m ³
	平成27年度	計画中



5). その他の事項

(2) 地域との連携の促進

鹿島灘海岸における漁業(ハマグリ)と共生するサンドリサイクル(「鹿島灘生態調査委員会専門部会報告(提言)」)の例を踏まえ、海岸保全における地域との連携の促進、順応的な事業の推進について追記する。

海岸管理者や地元大学などが実施する海岸に係る地形・地質、自然環境や利用実態に関する調査データについて、官学で共有し、互いに活用するなどの仕組みづくりに取組んでいく旨を追記する。

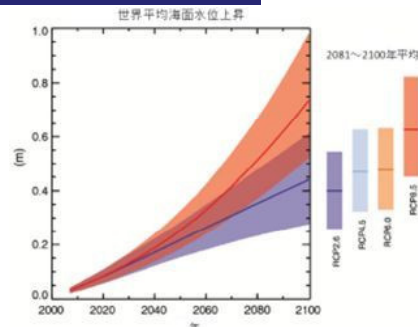


5). その他の事項

(3) 調査研究の推進

地球温暖化に伴う海面水位の上昇や台風の強大化等による沿岸地域への影響が懸念されることから、潮位、波浪等についての監視や、地球温暖化による影響の予測・評価を踏まえて、適応策の検討を進める旨を追記する。

世界平均海面水位の変化予測



種別	2100年放射抑制力	シナリオの種類
RCP8.5	2100年に8.5 W/m	上昇
RCP6.0	2100年以降6.0W/mで安定	オーバーシュートせずに安定化
RCP4.5	2100年以降4.5W/mで安定化	
RCP2.6	2100年より前に2.6 W/mのピークに達し、その後減少	ピークに達した後、減少

(出典)
「茨城沿岸における海岸保全計画外力の解説」
(IPCC2013)より